

## 〔Ⅱ〕 英語Ⅰにおける文法的分野の指導

宮 田 学

### 1. 新しい教育課程の実施

昭和57年度より高等学校においては、かねてより予定されていた新指導要領に従った教育課程が実施されることとなった。本校英語科においては、英語Ⅰ・Ⅱを意識した「総合英語の試み」を昭和54～55年度に行うとともに、従来より、文法的分野の指導について、「中・高のつながり」を考慮した実践を重ねてきた。詳しくは、本校紀要第25～27集を参照していただきたい。

新しい教育課程においては、英語Ⅰとして高校一年で5単位、英語Ⅱとして二年で3単位、三年で2単位をあてることにした〔表-1〕。実施一年目にあたる57年度は、一年生に対する「英語Ⅰ」週5時間の内1時間分を文法的分野の系統的指導にあてることとした。つまり、英語Ⅰの教科書を用いた4時間の授業とともに、文法の参考書（拙著『アルファ・シリーズ基礎英語』研究社）を用いた1時間の授業を実施したのである。本来、英語Ⅰの教科書は週4時間が基本的となっているので、増加単位分の1時間をそっくり文法的分野の系統的指導にあてたのである。

〔表-1〕 昭和57年度以降の新しいカリキュラム

学 年	英Ⅰ	英Ⅱ	英ⅡB	英ⅡC
一 年	5			
二 年		3		2又は3
三 年		2	3又は4	1

### 2. 昭和57年度一年生に対する指導

高校に入学した生徒たちが「英語がむずかしくなった」と感ずる割合の高いことは、しばしば指摘されることである。英語科伊藤が56年4月に附属高校一年生に対して実施したアンケート結果をみても、「高校へ入ってからの英語は難しくなる」と予想する者が52%もあり、一年生を指導する際には、こうした生徒たちの持つ高校英語に対する抵抗感を考慮してやらなくて

はならない。

とはいえ、高校英語を学習する際には文法的知識は欠くことのできないものであり、必要最低限の文法用語を覚え、実際に文法の諸規則を運用できるようにしてやるのが大切な課題となってくる。文法を避けて通ることはできないのである。

一年生の指導にあたっては、生徒の英文法に対する抵抗感を少なくしながら英語の言語的仕組みを要領よく学ばせるという解決をしなくてはならない。そこで考えられることは、生徒たちがすでに中学校3年間の英語学習で得たものを素材にして、まず、言語としての諸規則を整理してやった上で、新しい文法・文型事項へと導いてやるという手法である。この考え方は、『基礎英語』の編集方針の最大のものであり、第1章では、まず、英文の構造について中学英語を材料にして整理し、第2章以降で、各文法事項に関して「中学で習ったこと」から入り、高校段階での基本的な学習項目へとつなげるという工夫をしている。

また、文法的知識の定着のためには、できるだけ多くの英文に接することによって、その知識を実際に運用する力を養うことが肝要である。問題演習を通じて、文法の諸規則を適用する学力をつけることである。

こうした「中・高のつながり」と「演習による知識の定着」をねらって、57年度の一年生に対して〔表-2〕のような授業内容を実施した。基本的には、第1回目に学習内容についての講義形式の解説を行い、第2回目に関連の練習問題プリントで答合わせしながらルールの確認をするといった要領で授業を組み立てた。講義は、テキストの解説のくり返しとならないように心がけるとともに、テキストで取り扱っている項目に関して別のまとめ方をするなど、生徒たちの理解を助けるように工夫した。

第1章は中学で習った内容を素材にして英文の成り立ちを学習する章なので、特に念入りに取り扱った。そのため、例えば、五文型に関するプリントを2枚作成して既習の英文を五文型の立場でながめ直すことができるようにすると同時に、未習の動詞を使った文型へと発展させることをねらったりした。

〔表一2〕 昭和57年度『基礎英語』を用いた授業の記録

(Ex プリント=練習問題プリントの略)

一 学 期	二 学 期	三 学 期
1 「文の成り立ち」解説(1)	1 「名詞」解説※ <sup>1</sup>	1 「前置詞・接続詞」解説※ <sup>2</sup>
2 Ex プリント(1)答合わせ 文型プリント(1)の学習	2 Ex プリント答合わせ	(Ex プリントは冬休み前に配布し 課題に加え、この時間に正解例プ リントを与えた)
3 文型プリント(2)の学習	3 「代名詞」解説※ <sup>1</sup>	2 「動名詞・分詞」解説
4 Ex プリント(2)答合わせ	4 Ex プリント答合わせ	3 Ex プリント答合わせ
5 解説(2)	5 「態」解説	4 「不定詞」解説
6 「動詞」解説	6 Ex プリント答合わせ (中間テスト)	5 Ex プリント答合わせ
7 Ex プリント(1)答合わせ (中間テスト)	7 「法」解説	6 「関係詞」解説
8 テスト返却・反省	8 { Ex プリント答合わせ	7 Ex プリント答合わせ (学年末テスト)
9 { Ex プリント(2)答合わせ	9 } 「語法」解説(1)	8 「文の拡大 - 句と節: and の 機能 - 」(テキストにはない)
10 } Ex プリント(2)答合わせ	10 「語法」解説(2)	(「形容詞・副詞」の項目は英語Ⅰの 授業で扱ってもらった)
11 「助動詞」解説	(期末テスト)	
12 Ex プリント答合わせ (期末テスト)	11 Ex プリント答合わせ	

※<sup>1</sup>「名詞」および「代名詞」は夏休みの課題とした※<sup>2</sup>「前置詞・接続詞」は冬休みの課題とした

### 3. グループ学習の導入

一学期の実践をふり返ってみると、練習問題の答合わせを行った時間は、単調な感じで進みがちとなり、生徒の中には、正しい答えがわかればよいという態度で、ただ答えを自分のノートに写しているだけという者がいた。中には、すでに答合わせの終了したクラスの友人からノートを貸りて、指名された時に家庭学習を怠ったことで叱られないようにとする者まで現われた。これでは、実際に問題を解く中で文法の諸規則を身につけさせるという所期のねらいを達成できなくなってしまふことになるので、二学期からの授業の進め方を考え直す必要があると思われた。

そこで二学期は、グループ学習の形態を取り入れることにした。解説が終わったあとで、練習問題のプリントを配布したのは一学期と同じである。生徒たちはこのプリントを自宅でノートにやり、次回の授業では、指定されたグループに分かれて、グループ内で答合わせをしたのである。

グループは、各クラス7つの班に分けた。1つの班には男子3名、女子3名の合計6名が所属することになったが、2～3の班については男子または女子が1名ずつ増えて、7名の構成となった。班編成に関しては、名簿順とした。各グループでは、毎回、議長と記録係を輪番制で役割分担し、議長を中心にしてプリントの答合わせを行った。記録係には記録用紙が配布さ

れたが、この用紙には「班の中で一致した答えを書く」が、「一致しない場合には複数の答えを並列して書く」ようにと指示が与えられた。こうして、グループ内で不一致が生じた時には、どう考えたらよいのかを班員どうしで話し合わせるようにした。また、その話し合いの途上で出てきた疑問点、どうしても班員の間では解決できなかった点を所定の場所に書かせるようにした。

このようにして各班から提出された記録用紙をもとに、各問題の正解例および疑問点・質問点に対する教師側の回答をプリントにして、次回の授業で配布し、補足説明を行った。答えについては、3クラス21班の記録用紙を点検して、なるべく生徒たちが犯しやすい誤りを含んだものを選ぶと同時に、1つのクラス、1つの班に集中しないように配慮して適当な解答例を選び出し、これをコピーした上で、正解(◎)、誤答(×)、別解(△)という具合に区別して示した。また、疑問点・質問点についても、重複している項目があれば特定の班に集中しないよう考慮するなどして、出された質問事項をコピーし、それに関する教師側のコメントを書き加えた。なお、表に正解例、裏に解説という具合に、各章1枚のプリントに収めた。一例として、第7章「動名詞・分詞」の練習問題と正解・解説のプリントを一部示しておくことにする。

以上の手順を〔図一1〕に図示しておく。

〔資料一〕 第7章 練習問題プリント(C・D・E省略)

- (H1-M) SUPPLEMENTARY EXERCISES for KISO:CHAPTER 7
- A. ( )内のうち適するものを選べ。
- 1 The boy (sleeping, slept) on the sofa is my cousin.
  - 2 (Seeing, Seen, To see) from the top of the hill, the building looks very small.
  - 3 All my friends went out and I was (leaving, left) alone there.
  - 4 I never saw a lion (to catch, catching, caught).
  - 5 I'm looking forward to (see, seeing, saw, seen) you again.
  - 6 It is no use (to cry, crying, cried) over spilt milk.
  - 7 I enjoy (rest, to rest, resting) in the afternoon after (try, tried, trying) to finish (do, to do, doing) my homework.
  - 8 (At, In, On) finding the news true, she began to cry.
  - 9 She couldn't (help surprising, help being surprised, but have surprised, but surprise) to meet him in such a place.
  - 10 John is fond of (swim, to swim, swimming) in deep water.
  - 11 I am (interesting, interested) in geography.
  - 12 Is this an (interesting, interested) book?
  - 13 They were (exciting, excited) at the sight.
  - 14 They had an (exciting, excited) game last night.
  - 15 I am not ashamed of (he, his, him) being poor.
- B. ( )内の動詞を正しい形にせよ。
- 1 I am sorry to have kept you (wait) so long.
  - 2 She cannot make herself (understand) in French.
  - 3 He went to the dentist's to have his tooth (pull) out.
  - 4 'Hamlet' is a drama (write) by Shakespeare.
  - 5 Not (know) what to do, I asked my father for advice.
  - 6 I'm surprised at your (have) to work so late.
  - 7 I found the ground (cover) with snow.
  - 8 The girl (write) at the desk is my cousin.
  - 9 (Write) in easy English, the book is not difficult for us to read.
  - 10 (Write) something on a piece of paper, he handed it to me.
- (以下略)

〔資料二〕 第7章 正解・解説プリント〔表の一部〕

- (H1-M) SUPPLEMENTARY EXERCISES for KISO(CHAPTER 7):MODEL ANSWERS
- A.1( sleeping ) 2(◎ Seen × Seeing ) 3( left ) 4( caught ) 5( seeing )  
 6( crying ) 7(resting ) ( ◎ trying × tried ) ( doing ) 8( n )  
 9( help being surprised ) 10( swimming ) 11( interested ) 12(interesting)  
 13( excited ) 14( exciting ) 15( his )
- B.1( waiting ) 2 ( understood ) 3( pulled ) 4( written ) 5 ( knowing )  
 6( having ) 7( covered ) 8( writing) 9( ◎ written × writing )  
 10( ◎ Writing × Written )
- (以下略) (大文字のW)

〔資料一3〕 第7章 正解・解説プリント〔裏の一部〕

※各班より出された疑問点には、次のようなものがありました。

A2 seeing か seen かもめた } ⇒いずれも「意味上の主語」を考えること  
 ○A2 は the building → the building は「見る」方ではなく、  
 「見られる」方 → 従って seen

A4 caught か catching か? } ○A4 a lion → a lion は「捕える」方ではなく、「捕えられる」  
 方 → 従って caught

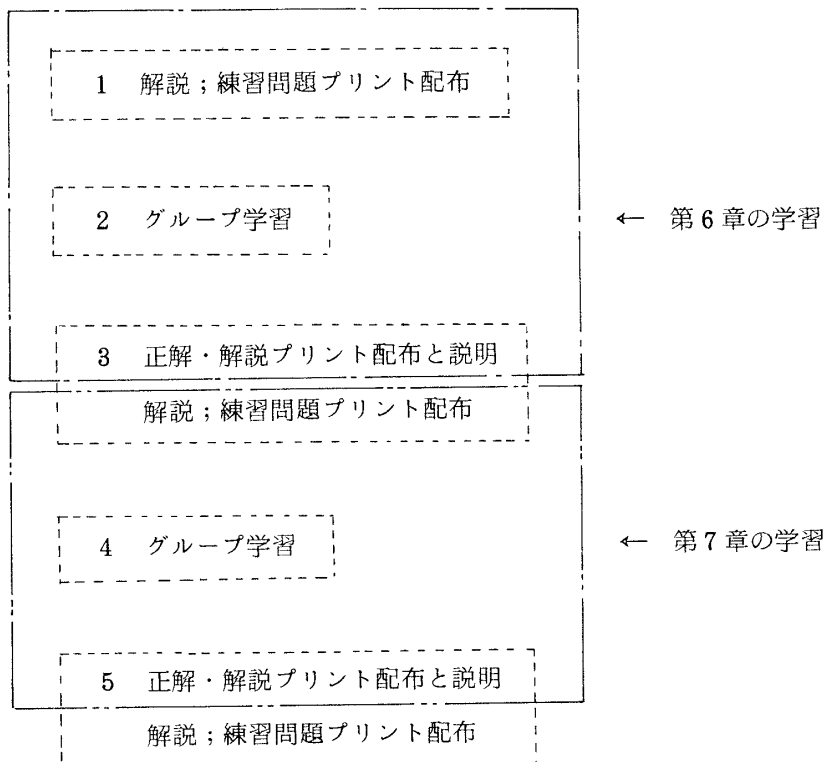
A7 どうして after が前置詞なのか? ⇒ その後ろに「主語+動詞」(=節)がないから。  
 A7 の(try, tried, trying)をどれにしていいかわからなかった。  
 ⇒前置詞(この場合 after)の後ろには「名詞相当語」が来るので動名詞→trying

A8 前置詞の区別のしかた ⇒ この場合は on ~ ing 「～するとすぐ」という連語なので on  
 A14がわからない。うけみになるかどうか?  
 ⇒excite は他動詞で「興奮させる」→game は「(人を)興奮させる」方だから現在分詞 exciting

B2 は意見がわかれた。understand と understood  
 ⇒SVOCの文型では、「O=C」が成立する。彼女自身(herself)は「(人に)理解される」方だから  
 過去分詞 understood 「彼女はフランス語では話が通じない」の意味

B8.9.10. written と writing の使いわけがわかりません。  
 (以下略)

〔図一1〕 二学期からの学習サイクル



〔表-3〕 二学期のグループ学習についてのアンケート結果（二学期末実施：回答者 131名）

1	あなたは、そもそも「グループ学習」・「班学習」というものが好きですか、きらいですか？				
	とても好き	好きなほう	どちらでもない	きらいなほう	とてもきらい
	17%	48%	21%	8%	7%
2	Grammarの時間に行ったグループ学習は、どうでしたか？				
	とてもよかった	よかった	どちらでもない	よくなかった	とても悪かった
	13%	36%	23%	22%	6%
	それはなぜですか？				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなと話し合いながら勉強できるので楽しい</li> <li>・グループの方が意見・質問が言いやすい</li> <li>・他人の意見を取り入れたり、自分の気づかなかったことを指摘してもらえる</li> <li>・わからないところを出し合って考え、それでもわからなかったら質問するという工夫だったから</li> <li>・楽しかったが、みんなちょっと積極的でなかった</li> <li>・全体でやるより個人の答えが尊重できる</li> <li>・その時に正しい答えがわからないため、むだな時間を使っているような気がしたから</li> <li>・次の時間に先生が説明するので、前の問題点がどこなのか忘れてしまう</li> <li>・できる人だけで話を進めてしまう</li> <li>・予習が不十分であまりうまくいかなかった</li> <li>・班の中に好きになれない人がいた</li> <li>・気軽に質問を出しづらかった、ムードが暗い</li> <li>・友だちとほかごとを話してしまう</li> <li>・人に頼ってしまう</li> </ul>				
3	クラス全体で答合わせするのと、グループ毎で行うのとでは、どちらが文法の知識・力がついたと思いますか？				
	グループ	かわらない	全体		
	45%	26%	29%		
	それはなぜですか？				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな意見を取り入れることができる</li> <li>・わからない所をみんなで教え合っできた</li> <li>・1人ではなかなか質問できないこともグループではできた</li> <li>・小単位だとさぼらない</li> <li>・グループでわからないことが出たらそれを質問に書き、あとで先生から詳しく教えてもらえる</li> <li>・全体でやると進むのがはやいが、グループでは自分のペースがつかめる</li> <li>・グループでは細かいことがすぐにきける</li> <li>・他班から出た疑問点について深く学べるから</li> <li>・グループだとむだ口、ほかごとが多くなった</li> <li>・グループでは答合わせに時間がかかる</li> <li>・他人の意見をきいても正しいのかどうかははっきりしない</li> <li>・グループでは真剣に取り組めない</li> <li>・全体の時は自分ひとりじっくり考えられる</li> <li>・先生に教えてもらわないとほとんどわからない</li> </ul>				
4	グループの中で自分はどのくらい積極的でしたか？				
	かなり積極的だった	積極的なほうだった	ふつう	消極的なほうだった	かなり消極的だった
	4%	18%	47%	22%	8%
5	その他、意見や希望があれば、自由に書いてください				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう少し班の人数を少なくするか、机の並び方を変えた方がいいと思う</li> <li>・グループどうして競争させれば、もう少し全員が参加しようと思う</li> <li>・班によってずいぶん積極性がちがっていたようにみえたので、班を変えたい</li> <li>・もう少し話し合いの時間を長くしてほしい</li> <li>・グループでやる時間を増やしてほしい</li> <li>・『基礎英語』の問題を取り入れながら説明してほしい</li> <li>・もっと進むはやきを遅くしてほしい</li> <li>・学力をそろえた方がよい</li> <li>・「その通り」、「残念でした」というように答合わせしたい</li> </ul>				

一学期の単調な感じで進みがちだった授業も、このようにしてグループ学習を組み込むことによって活発化した。しかし、グループによっては、プリントをやってくる者が少なかったり、あるいは、グループ内の

人間関係がうまく行かないなどで、グループ活動が停滞しがちとなる班も見受けられた（〔表-4〕参照）。

二学期の授業が終了した時点でアンケートを実施してみた。主な項目についてその結果を示すと〔表-3〕

〔Ⅱ〕 英語Ⅰにおける文法的分野の指導

のようになった。この結果を見てわかるように、二学期のグループによる学習は、気軽に楽しくできた点でよかったと評価していると同時に、グループ活動自体については必ずしも成功したとは言えず、むだ口が多く、積極的に参加している者の割合が低かったと言える。教師側としては、アンケート項目1で「グループ学習」そのものが「(とても)好き」と答えた生徒が65%もあるのに、項目2の二学期のグループ学習については「(とても)よかった」と感じた生徒が49%であったことを反省しなくてはなるまい。ただ、項目3で「グループで行う方が文法の知識・力がついた」と思う生徒の割合の方が多かった(45%)ので、二学期の反省の上に立って、三学期もグループ活動を取り入れることにした。

アンケートの中にグループ分けについての項目を入れて生徒たちの意見をたずねたところ、意外と「先生に任せる」というものが多かった(49%)ので、グループピッキングの方法をいろいろと考えたのであるが、結局再び名簿に従うことになった。つまり、名簿の1, 6, 11, 26, 31, 36番の生徒でA班、2, 7, 12, 27, 32, 37番でB班という具合に班員をピックアップした。ただ、二学期の班員構成をながめながら、なるべく班員相互が初めてのメンバー構成となるように配慮した。

さらに、三学期は、グループ活動がスムーズに行くことをねらって、議長を固定した。記録係については、議長が毎回指名するようにさせた。その他は、二学期と同じであった。

三学期の最初のグループ活動を行う前に、二学期のアンケート結果の中で特に反省すべきこと——プリントを各自が必ずやってくることを、班員が協力して能率よく進めることの2点を指示して、グループ学習を再開した。新しいグループで新たな気持ちで再出発したこと、議長が固定されて能率よく進んだこと、プリントをやってくる割合が増加したことなどが原因となって、三学期のグループ学習は、二学期よりも効果的であったように見受けられた。

三学期にもアンケートを実施した(三学期末の3月・回答者128名)。「三学期のグループ学習は二学期と比較してどうでしたか」という質問項目に対して、次のような反応を得た。

{	とてもよかった	16%
	よかった	37%
	どちらでもない	27%
	よくなかった	15%
	とても悪かった	5%

〔表-3〕の項目2に対する反応と類似しているが、若干プラスの方向に動いたようである。理由の主なものあげてみよう。

- ・二学期は消極的な子ばかりだったけど、グループを変えたのがよかった。
- ・二学期の班では自分より賢い子ばかりいて答をうつすだけという感じだったが、三学期は自分と同じぐらいのレベルだったのでやりやすかった。
- ・嫌いな子とグループがわかれたから
- ・明るかった；よく意見が出たし自分の意見も言えた
- ・てきぱきと進行したから；わからないところを徹底的にやった点
- ・二学期に比べて自分でも勉強していったし、班長がとてもよくやってくれ、班の雰囲気もよかった
- ・前よりみんながプリントをやってきたし、よく話し合えたから
- ・前のグループの方が意見が言いやすかった
- ・以前の班の方が気分良くやれたし、勉強する雰囲気だった
- ・レベルが自分よりも高すぎた
- ・特定の子が勝手にやって意見がまわってこなかった
- ・グループが変わっても、みんなに差はなかった
- ・あんまり好きじゃない人と同じ班だったからうまくいかなかった

このように、グループをかわってよかったかどうか意見を分ける最大のポイントとなったようであるが、三学期のグループは平均すると、二学期の場合よりもよかったようである。アンケートの中に、二学期末・三学期末いずれも、「自分のグループに関してあてはまるものに○印をつけてください」と、ア～トの20項目を設けて選ばせてみた。それぞれの項目を選んだ割合について二学期と三学期を比較したものが〔表-4〕である。「協力的な人が多かった」を選んだ生徒が13%から34%に、また「能率よく進んだ」が11%から30%に増加しているのが目立っている。逆に、「一部の人が集中してやった」が31%から10%に、「プリントを全くやってない人が多かった」が51%から29%に減少していることも目を引く。〔表-4〕の上半分10項目はグループとしてのプラス要素。下の10項目はマイナス要素と考えると、大体において、プラス項目を選んだ者の割合が増え、マイナス項目の方が減っていることがわかる。また、○印をつけた生徒数を単純に合計すると、プラス項目が延べ282人から330人へと増加し、マイナス項目が369人から239人へと減少した。これを比率で示すと、二学期はプラス100：マイナス131、三学期はプラス100：マイナス72となる。

【表-4】 自分のグループにあてはまるとした場合

項 目	学 期	
	Ⅱ	Ⅲ
	%	%
ア 楽しいグループだった	29	34
ウ 協力的な人が多かった	13	34
カ 集中してやる人が多かった	7	13
ケ 能率よく進んだ	11	30
サ 気軽に質問したり、意見を言ったり できた	45	49
セ わからないところを教えあうことが あった	33	34
タ 意欲的な人が多かった	9	8
チ 能率は悪かったが充実していた	27	21
ツ チームワークがよかった	11	17
ト 自分でやってなくてもなんとかみんな についてゆけたことが多い	29	17
	%	%
イ しらけた感じのグループだった	27	23
エ 孤立する人が目立った	24	15
オ 少数の人がどんどん先に進んだ	28	16
キ 一部の人が集中してやった	31	10
ク むだ口・ほかごとが多かった	24	16
コ 指示されたところまで進めないこと が多かった	48	30
シ 機械的に進む傾向が強かった	20	30
ス プリントを全くやってない人が多か った	51	29
ソ 司会役がでたらめのことが多かった	10	5
テ 答えのくいちがいがあってもそのま まにしておいた	18	12

#### 4. 「聞きとり」の練習

57年度に週1時間の文法的分野の指導を始めるにあたって、文法に片寄ることなく、さらに何かに取り組みたいと思い、とかく高校段階の英語学習では軽視されがちなHearing力の向上をねらった学習を組み込むことにした。

一学期は、学習中の文法事項に関連した聞きとりの材料をアレンジして、毎回授業の冒頭5~10分を使って、聞きとり練習を行った。材料は、市販されている音声教材(研究社『カセットで学ぶ基礎英語』)から選んだ。例えば、知覚動詞・使役動詞を用いた第五文型の学習が終わった次の時間では、補語の位置に来る動詞の原形や現在分詞形をぬいておき、テープから流れ

てくる英文を聞きとって正しく入れる作業を行わせた。

二学期は、2人のdialogueの英文からポイントとなる語句をぬいて絵とともに与え、テープの会話を聞きながら空所をうめる作業(応用練習1)、次に、まとまりのある話を聞いたあとで、内容に関する真偽問題を行う作業(応用練習2)を考えた。三学期も、この応用練習2を継続した。材料は、Oxford Univ. Pressの“Junior Listen & Speak”から選んでアレンジした。

このように、聞きとりの練習は「基本から応用へ」と次第に高度なものを行ったが、定期テストには、毎回1割程度は同様の聞きとりテストを含めた。二学期の期末テストの問題を参考までに示しておく。また、このテストは【表-5】のような結果となった。

三学期に実施したアンケートの最後に「聞きとり」についての項目を入れておいたが、生徒たちの反応は次のようであった。

#### ① テープによる聞きとりの練習は

とてもよかった	30%
よかった	47%
どちらでもない	20%
よくなかった	2%
まったくよくなかった	2%

#### ② 聞きとりの力が

かなり向上した	7%
向上したほう	59%
かわりない	34%

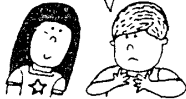
#### 5. 結びにかえて

三学期末に実施したアンケートと同時に、13の文法・文型事項についての理解度を、5段階で自己評価させてみた。その結果を集計し、平均評定値を算出したところ【図-2】のグラフのようになった。「(仮定)法」の項目が他に比較して特に低いこと、「動名詞・分詞」や「不定詞」という準動詞に関する項目が比較的低いことが注目される。二年生以降の指導にあたっての重点項目になろう。

〔資料-4〕 二学期末テストの聞きとり問題

(H1-M) TEST IN ENGLISH GRAMMAR-1 December 3, 1982

A. 絵を参考にして, 2つの会話文のぬけている所を聞きとり, 正しく書き入れよ。 (10)



Dialogue 1

A: I saw (1) \_\_\_\_\_ across the street this morning.

B: Did you? (2) \_\_\_\_\_ ?

A: Black. It was a black cat.

B: How lucky! It means (3) \_\_\_\_\_.

Dialogue 2

A: You look pale. What's the matter?

B: (4) \_\_\_\_\_ a cold.

A: Take some aspirin, (5) \_\_\_\_\_ get better.

B: Thank you. I will.

正解

(1) a cat running

(4) I've caught

(2) What color was it

(5) and you'll soon

(3) good luck for you

〔表-5〕 聞きとりテストの結果 (10点満点)

得点	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
人数	28	34	32	21	11	5	1	1	0	0

〔平均点= 8.17〕

〔図-2〕 文法項目についての自己評価

